

調査要項

遺跡名(番号)	出張坂城跡(県番号 203-020)
所在地	山形県鶴岡市大字下清水字水尻
時代・種別	中世・城館跡
起回事業	国道 7 号鶴岡バイパス建設
調査依頼者	国土交通省東北地方整備局 酒田河川国道事務所
調査機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター
現地調査	平成 23 年 5 月 9 日から 6 月 17 日まで
調査面積	600㎡
調査担当者	主任調査研究員 福岡和彦(現場責任者) 調査員 佐藤智幸

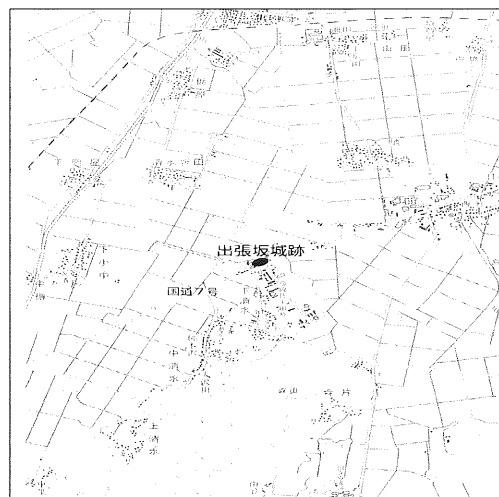


図 1 遺跡位置図 (1/50,000)

調査成果 (6 月 3 日現在)

検出遺構	集石遺構 1 溝跡 1 柱穴 18 性格不明遺構 4
出土遺物	中世陶器 (播鉢片) 近世陶磁器、銭貨

1 調査の概要

出張坂城跡は築城時期や築城者は不明ですが、16 世紀に武藤氏が居城した城であることが知られています。昭和 33 年に国道 7 号、昭和 44 年には鉄工団地の造成により大規模な削平を受け主曲輪の部分が消滅しました。

この度、国道 7 号鶴岡バイパスの拡幅工事に伴い、残りの部分も削平されるため、22 年度に地形測量調査を行い、23 年度に発掘調査を実施して記録保存することになりました。

2 見つかった遺構と遺物

多くの遺構は B 区の曲輪跡から見つかりました。用途は不明ですが、約 20 個の石を配列した集石遺構を尾根からの降り口部分で検出しました。曲輪跡の中央部分からは、大量の炭と焼土を含む溝跡と、それを取り囲む

ように、柱穴も数多く検出しました。その中で、2 間×2 間の総柱の掘立柱建物跡になる可能性のある柱穴も見ついています。また、A 区の曲輪跡の少し下の斜面から、城を構成していたと考えられる幅の狭い平場も検出しました。C 区と D 区は近現代に削平を受けたためか、遺構は検出されませんでした。

出土遺物は、A 区下の第 2 トレンチを 50 cm 程掘り下げた場所から、この城の成立時期に相当する 15～16 世紀代頃の播鉢片が見つかりました。A・B 区の遺構検出面から、近世以降の陶磁器片も数多く出土しています。寛永通宝と思われる銭貨も 2 枚出土しました。

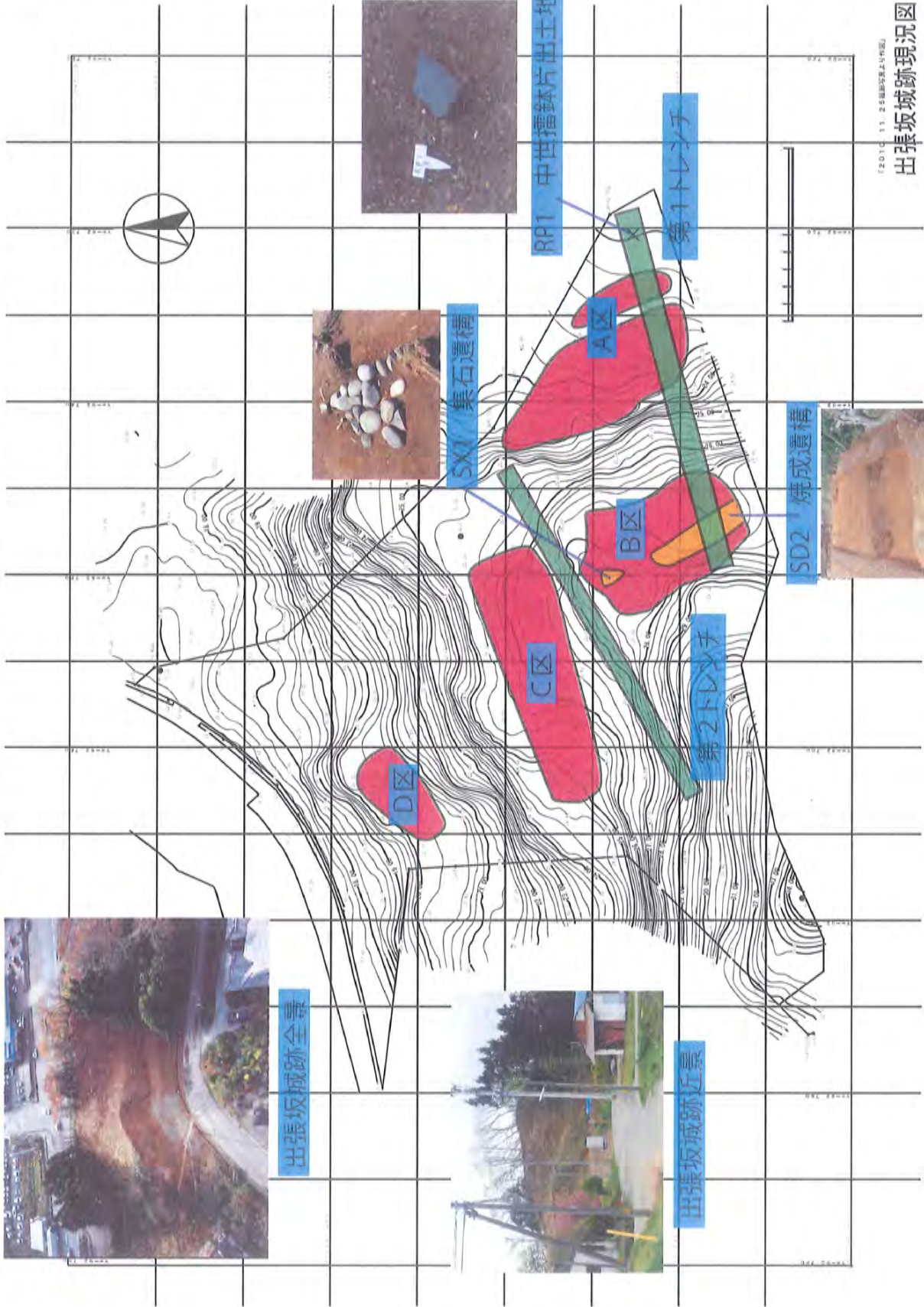
今後は、検出された遺構や出土した遺物を詳しく調査・研究し、これまで知ることができなかった地域の史実を明らかにするとともに、報告書にまとめていくことにしております。



出張坂城跡全景



出張坂城跡近景



SX1 集石遺構



RP1 中世播鉢片出土地点



SD2 焼成遺構